

これからもつと

富裕層

になるための
ファンド選び

第5回
金融危機時の資産形成法



Photograph by Yoshinobu Ogawa

上中康司氏(うえなか こうじ)

1962年生まれ。88年、神戸大学大学院工学研究科修了後、日本債券信用銀行入行。その後、シティバンク、クレディスイスファーストボストン証券、住友キャピタル証券、日本インベスターズ証券を経て、2000年、エルエードットコム株式会社設立。02年、社名をエフエーストック株式会社に変更

今回の金融危機は、数十年に1度のチャンスという上中氏。

「このような世界的金融危機時に、

有利な通貨円を実物価値がきっちり分かるものに集中的に投資することこそが、

今後数年で大きく資産を築く方法だという。

事実、過去、富豪になった人たちは皆、この方法で大きく資産を増やすことに成功した。

すなわち徐々に富豪になるのではなく、通貨、株価、コモディティ価格の歴史的な好機を捉えて、

集中投資をして大きな利益を得ることに成功し、一気に富豪になったのだ。

投資アドバイザーの筆者が明かすいま、最も旬な投資法とは。

先

日、私はオーストラリアの鉱山視察に行ってきました。シドニーから国内便で1時間のところにあるパークスという街に行き、そこから車で2時間のミネラルヒルズという鉱山です。途中の道路は一本道で、行けども行けどもあたり一面の小麦畑です。最も近い町がコングブリンという町ですが、そこからさらに65キロ走ると灌木地帯の中に小高い丘が見えてきます。ここがミネラルヒルズです。

この鉱山は、東邦亜鉛の子会社CBH社が以前、他社から買ったまま保有していたものです。CBH社は亜鉛を産出する会社です。亜鉛以外のベースメタルの銅鉛と、貴金属の銀が、このミネラルヒルズ鉱山から産出します。他にも、このミネラルヒルズの10倍以上の規模の鉱山をオーストラリアの北部キンバリー地区など2カ所保有しています。この3つの鉱山をキンバリーメタルという会社にして発足させたのが2008年の2月です。経営陣はCBH社の創業者など、役員が数名入り、2009年中にオーストラリア証券取引所に上場する予定です。私のオーストラリア法人であるJINJI RESOURCES社と何人かの投資仲間がこの会社に大きく投資し、一部オーナーになる



オーストラリアのミネラルヒルズに足を運び、鉱山を視察する筆者(右)。投資先を自分の目で見て確認する慎重さは必須だ

つもりです。

実際に私は、ミネラルヒルズ鉱山のこれから掘る予定の地域に入り、鉱区を入念に見て回りました。当社からは、私以外にチャーリー・中村が、キンバリー社からはアダム・マッキノン博士が参加しました。表面に露出している岩石をハンマーで割ってみて、割れた岩石のかけらの内部に、見事な緑色や青色の銅、黄色の銀、白色の鉛を見ることができました。こうした豊富に鉱物を含んだ石がごろごろしています。もちろん、実際に200本ものボーリング調査を行うって地下にもこれらの鉱石がある

ことが確認されています。ミネラルヒルズ(鉱石の丘)と呼ばれているわけが分かりました。これらの金属を含んだ岩石を破砕し、より分ける設備もすぐ稼働できることも確認しました。また、この鉱山から近くの町までは、トラックで輸送できる道があり、町からシドニー近郊の港まで、鉄道で運搬できることも確認しました。来年から商業ベースの生産を行い、最終的には年間1億豪ドルの利益を上げる予定です。この金融危機時に鉱山を買うことは、3年後の将来に大きな楽しみができます。

我々日本人が投資することは、最も強い通貨円からの投資になります。現状のような1豪ドル60円(08年12月10日現在)の為替レートで投資できることは大変有利です。数カ月前までは、100万豪ドル投資するのに、1億円必要でしたが、現在は、6000万円で済むわけです。

また、急速な信用収縮で、コモディティ価格も急降下で下がり、それに比例して鉱山株、特に商業生産がまだ行われていないジュニアマイニングの株式は大きく値下がりにしています。円からの投資は、安い豪ドルで、きわめて安い鉱山株を買うことが可能です。数カ月前の約30%の値段で買うことも可

能なのです。

世界的にマネーの信用収縮が急速に起きている中で、マネーマーケットは、機能不全を起こしています。どのような経済学でも説明がつかないレベルまで売り込まれています。マーケットは、感情で動いているのですから、経済学で説明できるわけがないのです。

心理学で説明すべきなのです。参加者、総悲観のマーケットで、お金が向かう先は、実物資産です。恐ろしくレバレッジがかけられた証券化商品、信用デリバティブ商品から、実態の伴った資産、最終的にはモノで担保されている資産へとお金の流れが起きてくるはず

です。金や鉱山株がこれにあたります。実際、金は1オンス800ドル台で高止まっています。また、あまりにも急激な景気後退で、需要が減り、鉄、銅、亜鉛などの価格は急激に下がっていますが、中国、インド、東南アジア、中東の急ピッチのインフラ整備を考えると、これらの金属の価格もいざそれは反転に転じるものと考えます。

ただ、資源国であれば、どの国の鉱山株でもいいというものではありません。その国のカンントリーリスクを考えなければなりません。政治リスク、法律リスク、信用リスクなどです。国自体が財政的に

行き詰まっているような国では、通貨価値の暴落、金利の急騰などのリスクがあります。

そう考えると、オーストラリアでの投資は安心です。オーストラリアは、治安がよく、紛争や戦争の起きる可能性は低い国です。また、英米法で契約がなされているため、法務リスクもありません。会計、監査においてもパーフェクトです。粉飾などあり得ない世界です。また、もちろん国、州自身の財務的リスクもほとんどありません。それ以外にも、年中、採掘が可能な気候条件、コストが安く、済心地形的条件にも恵まれています。

鉱山株への投資は一例ですが、このような世界的金融危機時に有利な通貨円から、実物価値がきつちり分かるものに集中的に投資すること」は、今後数年で大きく資産を築く方法なのです。過去、富豪になった人たちは、皆、この方法です。

今回の金融危機は、数十年に一度の大チャンス。私もこのオーストラリアのキンバリー鉱山へ集中投資するつもりです。読者の皆様もこういう投資を考えられてはいかがでしょうか。

この記事に関するお問い合わせは



SEVEN HILLS ☎ 0120-077-917

受付/月～金曜日10:00～18:00(土日を除きます)
E-mail:ccginfo@7hills.ne.jp

年内は12/26(金)まで、年始は1/5(月)より営業いたします。